

◆ 議長就任記者会見

日 時：平成28年6月21日（火）17：45～17：57

場 所：県議会理事者控室

出席者：川口正志議長、小泉米造副議長



川口 正志議長

小泉 米造副議長

<就任にあたって>

○川口議長

このたび、多数の議員各位のご支持によりまして、議長に選出いただきました。

議会と理事者、知事との関係は、車の両輪であり、両方が円滑に回るよう、いい形での車の両輪でなければならないと考えます。言い換えれば、理事者側の提案をただうのみにするだけではなくて、議員は県民の信託を受けて、県政に臨んでいるので、大いに意見を主張させていただきたい。理事者の提案に迎合するスタンスではなく、大いに意見を交わし合い、県民の信託に応えたいと思います。

県民の皆様をはじめ、知事・市町村長並びに報道関係者の皆様方には、一層のご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げまして、議長就任にあたりましての挨拶といたします。

○小泉副議長

このたび、副議長に選出していただき、誠に光栄に感じている次第です。

議長を補佐し、県民の立場に立って、県政をしっかり監視もしながら、あるいはまた引っ張っていくこともしながら、いい議会を作り上げていきたいと思っています。

関係の皆様には一層のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げ、就任にあたりましての挨拶とさせていただきます。

<質 疑>

記 者：議会改革ということが言われてきましたが、踏み込んだ話がありますか。

川 口 議 長：常に、いつの世にも、改革は基本でなければならない。そういう意味で、引継ではなしに、県議会の今日までの流れの中で、推進されてきたものが、いつそう円滑に、効果的に進むように、いろんな面からみんなの英知を集めながら、改革に努めなければいけない、と思っています。

小泉副議長：今議会改革推進会議で、いくつかの論議をしており、今議会から、スマートフォンなどを委員会に持ち込むことが出来るようになったわけです。これから予算を組もうとしているのは、手話通訳を実施してテレビ放映が出来るということです。今いくつかの材料を議会改革推進会議で出しておりますので、議員の意見も聞きながら、積極的に改革に取り組んでいきたいと思っています。

記 者：選挙でしたから、会派間で、政策の、協定的なものは、ありましたか。

川 口 議 長：改革ですね。その意味での積極性。いろんな面で、まずは私どものスタンスを十分に見ていただきたい、ある意味では監視もしていただきたい、と思っています。

記 者：川口議長は無所属で、小泉副議長は自由民主党のご所属ということでよろしいでしょうか。

小泉副議長：はい、そうです。

川 口 議 長：無所属とはいえ、創生奈良という会派を作っています。

記 者：議長は2回目ということですね。前回された経験を踏まえて、今回はこうしたいというようなところはありますか。

川 口 議 長：前は8年前で、時代が変化していますから、こうしたいああしたいということよりも、私もベテランになっていますから、それなりのキャリアを生かした形で、ただ単に当選回数をふやしたという気持ちだけではなしに、10回も当選しているわけだから、そのキャリアというものを存分に生かした形で、議員活動も、議長としての職責も全うするよう努力をしたいと思っています。

記 者：さまざまな調整等において、やはりキャリアというのは大きいということですか。

川 口 議 長：そうですね。

少子高齢化時代ですから。奈良県では、特に南部、東部の過疎化が非常に急ピッチで進んでおります。昔から私は、北高南低という県政のイメージがあります。そういうことを言えば、北和の人は気分をこわすかもわかりませんが。かつては、保存と開発という言葉がよく使われました。奈良は歴史を持っておりますから、そのロマンというものを保存し、それをまた活用していかなくてはいけないと思います。また、国際化がどんどん進んでいっていますから、そういう意味での、広々とした世の動きというものを見なければいけないと思っています。格差是正ということを考えていかないといけないし、少子高齢化時代とあわせて、高齢福祉の問題、年金の問題など、課題は、国・地方を問わず、共通したものではないか、と思っています。そういう意味での、視点を大事にしないといけないと思っています。

記 者：御所市選出の川口議員が議長になられたということで、格差というのは、南北格差ですか。

川 口 議 長：南北格差もありますし、人権、人間の尊厳という意味での格差の問題もあります。経済の問題、地域の問題、人間の尊厳というものにポイントを置いた形の格差。尊ばれる人と虐げられる人が今日存在するわけです。人権文化という意味における課題への対策も重要であると思います。